

## 成績評価と単位認定について

成績評価	成績評価の内容	意味	単位の認定	評価点 (G P)	備考
秀	100～90点	特に優れた成績	認定	4.5点～3.5点	この評価点は令和7年度入学生から適用
優	89～80点	優れた成績	認定	3.4点～2.5点	
良	79～70点	良好な成績	認定	2.4点～1.5点	
可	69～60点	良好には達していないが合格の成績	認定	1.4点～0.5点	
不可	59～0点	合格と認められない成績	不認定	0点	
放棄	受験資格はあったが、定期試験を受験しなかった場合、あるいは授業の出席回数が不足していて、受験資格がなかった場合		不認定	0点	
合	—	合格	認定	—	
否	—	不合格	不認定	—	
認定	—	外部評価による単位認定	認定	—	平成27年度入学生から適用

※上表の評価点 (G P) については、次の「G P Aについて」を参照してください。

履修した科目的単位認定は、原則として試験によって行われます。

但し、科目によっては、試験以外の成績評価によって単位が認定される場合があります。

通年科目の場合は、年間（後期終了）の成績で単位が認定され、半期科目（前期終了または後期終了）の場合は、半年間の成績で単位が認定されます。

原則として、一度認定された単位の取り消しや成績評価の変更はできません。

※学期の途中で退学・休学した場合は、その学期で履修している科目的単位は認定されません。

### 【教養講座の単位認定】

教養講座は、教養ゼミの一環として開設していますので、教養講座としての単位認定は行いません。

## G P Aについて

G P A (Grade Point Average) は、学生の学修成果を厳格・厳正に評価し、それを的確に反映することを目指した指標です。G P A値の変化を学期ごと、あるいは学年ごとに確認することで、自らの学修の到達度や学修成果の伸びを確認することができます。また、G P A値に基づいてクラス担任等から履修登録や学修の支援を受けることができます。G P Aの計算方式は入学年度によって異なります。

### 【令和6年度以前に入学した学生の場合】

各履修科目の原成績（素点）を秀・優・良・可・不可の5つのグレードに置き換え、それぞれのグレードの評価点 (Grade Point, 以下G Pという) を、秀 (100～90点) は4点、優 (89～80点) は3点、良 (79～70点) は2点、可 (69～60点) は1点、不可 (59点～0点) は0点とします。出席回数の不足により成績評価の対象とならなかったために、あるいは正当な理由なく定期試験を欠席したために放棄と判定した科目についてもG Pは0点とします。各年度の前・後期ごとの「学期G P A値」と、入学時から通算した「累計G P A値」は、学生が評価を受けた科目的G Pに基づいて次の(1)(2)の式によりそれぞれ算出します。ただし、卒業要件に含まれない科目、及び認定あるいは合否によって単位を修得した科目は、G P Aの対象科目には含めません。

#### (1) 学期G P Aの計算式

$$\text{学期G P A値} = \frac{\text{(評価を受けた科目の評価点} \times \text{その科目の単位数)} \text{の合計}}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$$

#### (2) 累計G P Aの計算式

$$\text{累計G P A値} = \frac{\text{(評価を受けた科目の評価点} \times \text{その科目の単位数)} \text{の当該学期の合計}}{\text{当該学期までの総履修登録単位数}}$$

## 【令和7年度以降に入学した学生の場合】

各履修科目の原成績（素点）が100点～60点の場合には、素点から55を引いた後に10で割った値をその科目的GPAとします。不可（59点～0点）の科目はGPAを0点とします。出席回数の不足により成績評価の対象とならなかったために、あるいは正当な理由なく定期試験を欠席したために「放棄」と判定した科目についてもGPAを0点とします。各年度の前・後期ごとの「学期GPA値」と、入学時から通算した「累計GPA値」は、学生が評価を受けた科目的GPAに基づいて上の（1）（2）の式によりそれぞれ算出します。ただし、卒業要件に含まれない科目、及び認定あるいは合否によって単位を修得した科目は、GPAの対象科目には含めません。

## 【GPAの計算方式を変更する理由】

令和6年度以前に入学した学生について本学で用いてきたGPAの計算方式は、多くの大学で一般的に用いられてきたものと同じですが、この従来型のGPAの計算方式では、秀・優・良・可の各グレードの区間内で素点の点数が高い人ほどGPAでは相対的に点数が下がり、素点の点数が低い人ほどGPAでは相対的に点数が上がることになります。また、異なるグレード間の境界付近では、素点の小さな違いがGPAでは大きな違いに変化します。GPAの計算にあたってこのような得失が累積することにより、GPA値の順位は原成績に基づく成績順位と一致しなくなってしまいます。

そこで本学では、より正確な学修成果の評価を行うことを目指して、令和7年度の入学生から、素点から55を引いた後に10で割った値をその科目的GPAとするfunctional GPAの計算方式を採用することにしました。この計算方式では、教員が厳正・厳格に行った評価結果をより正確に反映したGPA値を得ることができます。GPA値の順位は原成績に基づく成績順位と一致します。

従来型の計算方式で得られるGPA値とfunctional GPAの計算方式で得られるGPA値には通常大きな違いは生じませんが、両者が同じ値にはなるとは言えません。在学途中でGPAの計算方式を変更すると、これまでの在学期間の学期GPA値や累計GPA値が変わってしまうという問題が生じます。そのため、**令和6年度以前に入学した学生については、従来どおりの計算方式によるGPA値を卒業時まで継続して用いることとします。**

## 【GPAに関する留意事項】

- 履修を辞退したい科目が生じた場合には、履修登録・辞退確認期間中に「ゼルコバ」で必ず履修登録を取り消してください。取り消さずにそのままにしていると評価が「放棄」となり、その科目的GPAは0点として計算されることになってしまいます。
- 学期GPA値が2期連続して1.0を下まわる学生には、クラス担任が指導を行います。
- 学期GPA値が3期連続して1.0を下まわる学生には、保証人同伴のうえ、学部長または学科長が厳重注意を行うことがあります。
- 学期GPA値が4期連続して1.0を下まわる学生には、学部長は学科長と協議のうえ、成業の見込みがあると判断される場合を除き、学長の承認を経て、退学を勧告することがあります。

## 1年間の履修上限単位数について

学部	1年間の履修上限単位数	履修登録できる単位数の上限の対象から除外する科目
全学部	48単位 (前・後期 各24単位以内)	卒業要件に含まれない科目

## 【CAP制について】

CAP制とは、授業を受ける時間に加え、予習や復習など授業の時間外において学修する時間を確保するため、1年間あるいは半期（前期・後期）間に履修登録できる単位数の上限を設けて、単位数の過剰登録を防ぐ制度です。

平成26年度以降の入学生からこのCAP制を適用していますので注意してください（上表を参照）。ここで、CAP制では原則として卒業要件に含まれる科目的単位数を対象とし、卒業要件に含まれない科目（一部を除いた教職に関する科目、資格取得等に関する科目及び副専攻科目）の単位数は除外します。

## 【CAP制の緩和について】

CAP制の緩和措置として、前年度1年間のGPAが3.5以上で、かつ前年度までの修得単位数が「望ましい年次別累積単位数」を満たしている学生は、年間4単位（前・後期各2単位）分を、履修登録上限単位数から緩和することができます。

但し、前年度または当該年度に留年した場合、及び、当該年度に転学部（科）した場合を除きます。